



プレイフォレスト
遊びの森キャンプ場

群馬県前橋市粕川町室沢

前橋市粕川町にある木の実幼稚園が教育活動の一環として運営する森の中の遊び場。広大な敷地の中には、自然の地形と樹木を利用したアスレチック施設、焚き火場やクラフトコーナーなど、親子で自然体験ができる施設が充実している。あえて禁止事項を設けず、子どもたちが自分で考え遊ぶことを促す。毎月第2・第4日曜日に開放している。



手作りのボルダリング小屋で遊ぶ千太郎くん。のびのびとした環境で、子どもたちは自分で考えながら楽しみを見つけていく。



囲炉裏小屋でくつろぐ岳彦さんの父・務さん。この山の家は、登山家でもある務さんのDIY精神の結晶ともいえる場所だ。

岳彦「妻も田舎育ちだったので、都会で子育てというのはお互い考えづらかった。前橋は子どもの医療費が無料ですし、幼稚園も自然派でのびのび遊ばせてくれるのは地方ならではの良さ。都会だと車を持つのが難しいですし、公共空間とプライベートが近いですね。こっちは移動も車で行けるからずっとプライベートで、緊張感なくのびのび暮らせるというのがありますね。都会にもそんなに遠くないし、適度に田舎だし、地震もそん

のクリエイティブな仕事にも影響を与えているのだろうか。
岳彦「父の影響は大きいと思いますね。高校生の時に家族でネパールに登山旅行をしたりといった経験のおかげで、都会的な生活だけに染まってきたのとは違う振り幅や世界観も身に付いたと思います」
**自然の中で育まれる
これからの家族のかたち**
妻の恵子さんの故郷の鹿児島も桜島がシンボルだ。山を背にしたまちの姿はどこか似ている部分があるのかもしれない。
恵子「最初の頃は、前橋から見える山のどれが赤城山で、妙義山で、榛名山かって、全然覚えられなかったんですけど、訪れるうちにそれもだんだん分かるようになって。山を覚えることでちょっとずつ群馬を知っていくような感じがありましたね」
岳彦「妻も田舎育ちだったので、都会で子育てというのはお互い考えづらかった。前橋は子どもの医療費が無料ですし、幼稚園も自然派でのびのび遊ばせてくれるのは地方ならではの良さ。都会だと車を持つのが難しいですし、公共空間とプライベートが近いですね。こっちは移動も車で行けるからずっとプライベートで、緊張感なくのびのび暮らせるというのがありますね。都会にもそんなに遠くないし、適度に田舎だし、地震もそん



なれないし、暮らすにはバランスがいいのかなと思います。それから前橋は冬の日照時間が全国平均に比べて長いんですよ。だから冬が朗らかでいい。風は強いですけどね(笑)」
恵子「幼稚園の友達家族とキャンプに行ったり、ここで友達を呼んで4〜5家族くらいで宴会するのも楽しいですね。子どもたちは川遊びを楽しんだり、ゲームをしたり」
岳彦「子どもたちは二人とも親の影響で絵を描くのが好きですね。上の子は工作したりするのも好きなので、将来はクリエイター系かな？(笑)いつも黙々と何かを作っていますね。週末はここで声を出して遊んだり、火を焚いて遊んだり、なんでも出てしまおうので、かなり恵まれた環境だと思います。川遊びも出来るし、雪遊びも出来る。子どもが成長してもこういう生活を好きになってほしいですね」

赤城山の susono で暮らす

5

島田岳彦さん家族

赤城山の南面を麓へと流れる粕川。その名前の由来は、室町時代からこの地域に伝わる伝統行事で白酒を川に流す神事にちなんだものと言われる。その粕川に沿って南北に広がるのが粕川町(旧・粕川村)。中でも中之沢地区は赤城山の中腹にあり、ナチュラルチーズを製造する酪農家の「スリーブラウン」や、私設美術館である「中之沢美術館」などが点在するのどかなエリアだ。平日は前橋市内の平野部にある自宅から都心へ通い、週末はこのエリアにある別邸で過ごすという島田岳彦さん一家を訪ね、前橋駅から車を走らせること40分程。高原の別荘地の



ような趣きの静かな林道を抜けたところに、島田さん一家が週末を楽しむ別邸があった。
岳彦「もともと地元が前橋なんですけど、群馬を離れて京都の大学に進学して、卒業後は川崎の会社に就職しました。その間に父がこの場所に別宅を作り始めて、『自分たちは将来的にはこっちに移住するから実家のほうに住まないか』と言われていたんです。両親の年齢的なこともあって、最終的には完全に引っ越すのではなく、両親のために実家の隣にもう一軒家を建ててそこに住むことになりました」

家族で作る、 親子三代の憩いの場。

父・務さんは日本百名山を踏破するほどの登山好き。書齋には務さんの趣味である登山や山に関する本、登山日記などがひしめいていた。3歳から山に連れて行かれていたという経験は岳彦さん自身に

た。10年ほど前から、そこで平日を過ごし、週末は中之沢で過ごしています」
岳彦さんの父の務さんが20年ほど前にこの一帯の土地を購入。知り合いの業者の助けを借りて森を切り開き、家を建てたという。母屋の完成後、ゲストハウス、書齋、囲炉裏小屋と、敷地内の建物は徐々に増えていった。現在では4棟の居住空間に加え、クライミングルーム、薪小屋、ガレージが建っている。
**少し長めの通勤時間が
オンとオフを切り替えてくれる**

岳彦「今の職場は新宿で、ゲーム制作会社でキャラクターや背景のデザインをしています。新幹線で通勤していますが、自宅からは2時間ちょっとですね。10年くらいこの通勤スタイルなのでもう慣れました。プライベートの時間が強制的に確保できるので、本を読んだり動画を見たり、ゲームを楽しんだりしています。通勤時間の長さはオンとオフを切り替えるのにかえってちょうどいいですね。それよりは、週末に広々とした田舎で暮らせるメリットのほうが大きいかなと思っています」